

## 第4回噴火湾ホタテガイ情報(2014年) 発行日:平成26年5月23日

発行:函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場、協力:胆振・渡島北部・渡島地区水産技術普及指導所

湾内のラーバ密度は前回調査(5月7~8日)に比べて、全体的に増加しています。しかし、場所によって分布密度に大きなばらつきがあり、湾南側及び湾口部にかけて比較的多く、湾北側および湾奥で少なくなっています。ラーバの大きさは小型(150~160 $\mu\text{m}$ )が主体です。

(注:湾内沖のラーバサイズ組成に誤りがあったため修正しました。2014/07/08)

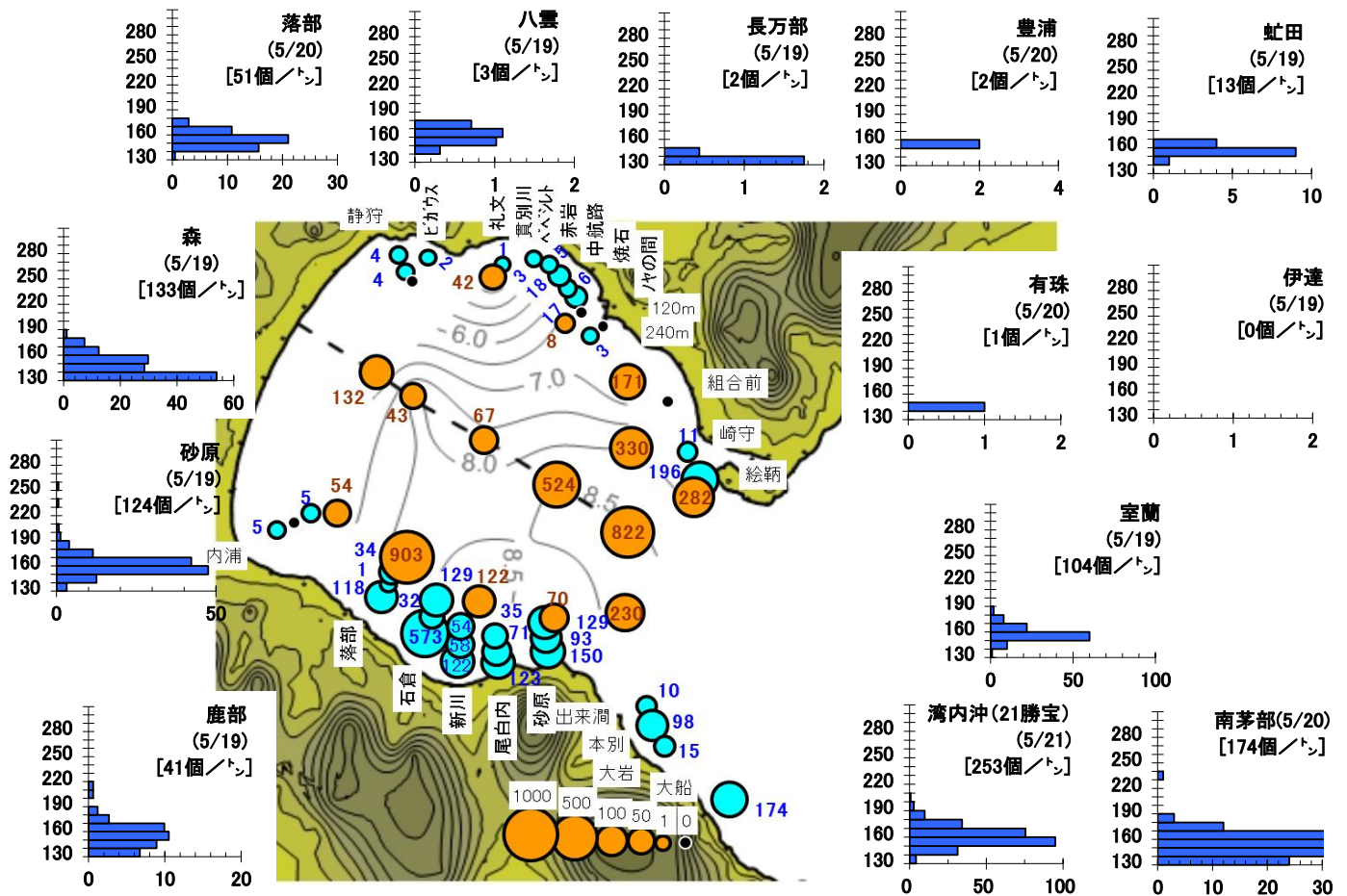


図1. ホタテガイラーバの分布状況と各地区におけるラーバ殻長( $\mu\text{m}$ )の組成(2014年5月19~21日)  
丸の大きさと下部の添付数字はラーバ密度(個/ト)、オレンジは第21勝宝丸調査結果、水色は各地区指導所調査結果、灰色曲線と数字は10m深における等水温線と水温( $^{\circ}\text{C}$ )。

【概要】5月19~21日に各前浜および、湾内沖合(第21勝宝丸)において、ホタテガイラーバ及び環境調査を行いました。湾内のラーバ密度は、前回調査(5月7~8日)よりも増加しています(湾内沖平均:5個/ト → 253個/ト)。また、湾南側及び湾口部で比較的多く、湾北側および湾奥では少なくなっています。ラーバの大きさは、全体的に小型(150~160 $\mu\text{m}$ )が主体です。

今回、ラーバの分布は非常に偏っていましたが、これは調査直前に吹いた風の影響だと考えられます。海表面の水は、風の進行方向に対して90度右向きに流される性質があります。噴火湾では5月17~19日に西風が強く吹きました。その結果、湾北側および湾奥の水が南向きに流れ、そこに居たラーバも南に運ばれたと考えられます。このような流れは風による一時的なものです。

指導所の母貝調査によると、渡島側では5月中旬に本格的な産卵が見られており、今後、ラーバ密度は増加すると考えられます。ラーバ分布状況や成長については、各地区水産技術普及指導所の「ホタテガイ採苗情報」も参照してください。次回の全湾のラーバ及び環境調査は、6月3~6日に実施する予定です。

(連絡先:函館水産試験場 佐藤・吉田・金森・渡野邊 TEL:0138-57-6074

注、移転に伴い6月2日以降、電話番号が変わります 新TEL:0138-83-2893)

この情報は函館水試のホームページからもご覧いただけます。 <http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/>

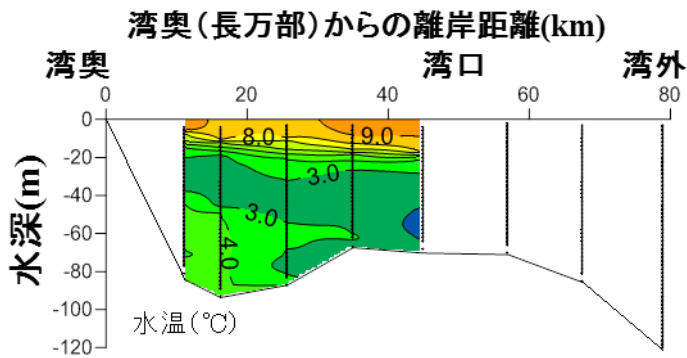


図2. 噴火湾縦断面の水温分布  
(位置は図1の破線部)

#### 【環境情報】

今回、10m 深の水温は湾の南側で 8~9°C と高く、北側では 4.5~6°C と低くなっています(図1)。これは西風による沿岸湧昇\*が原因と考えられます。

湾内の 20m 以浅は、水温 4~10°C と平年並みまで上昇していますが、20m 以深の水温は 2~4°C と依然として低い状態が続いています(図2)。そのため、風による沿岸湧昇によって、表層水温が一次的に低下しやすい状況です。

#### ※用語説明

「沿岸湧昇: 風が吹くことで表層の水が移動し、深い所から冷たい水が上がってくる現象。胆振側では北もしくは西風、渡島側では南もしくは東風が強く吹くと、表層水温が低下する傾向にあります。」